百人一首

⑥⑤番から⑥⑧番

年　月　日　曜日

名前（　　）

百人一首を書きましょう。

恨みわび干さぬ袖だにあるものを
恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ

相模

もろともにあはれと思え山桜
花よりほかに知る人もなし

大僧正行尊

春の夜の夢ばかりなる手枕に
かひなく立たむ名こそをしけれ

周防内侍

心にもあらで憂き世に長らへば
恋しかるべき夜半の月かな

三条院

【現代語訳】
つれない人を恨み嘆いて、涙にぬれて乾くひまもなく袖が朽ちてしまいそうなのに、この恋のために浮き名が立って私の名が朽ちてしまうのも残念でなりません。

【現代語訳】
私が思うように、お前も私のことをしみじみとなつかしく思ってくれ、山桜よ。このような山奥では、桜の花より他に知る人も居ないのだ。

【現代語訳】
春の夜の儚い夢のような戯れの手枕をして頂いた為に、つまらなく立つ浮き名が口惜しく思われます。

【現代語訳】
私の気持ちに反してつらいこの世に生きながらえるのであるならば、今宵の月はきっと恋しく思い出されるに違いない。

介護現場・認知症予防応援サイト
脳トレの効果
OK プリント使用・ダウンロード無料、施設での利用可
NG 他サイトでの再配布・複製・譲渡など不可
https://orange665.com/